



女性活躍推進フォーラムin九州

2グループが企画プレゼン

大熊三恵氏講演「印象度アップ」

人材育成委員会主催の「第2、3回女性活躍推進フォーラムin九州」が12月8、9日の2日連続で、福岡市、福岡県遊技会館会議室で開かれた。さる9月9日の第1回に引き続き、九州、近畿支部の会員企業から女性の正社員8人（1社1人）が参加した。

8日（第2回）は前回に引き続いて2グループに分かれ、「ワーク・ライフ・バランス」のテーマに沿って企画を練った。

9日（第3回・最終回）は、実務講座でデライト・コミュニケーション・セッションズ（株）講師の大熊三恵氏が「印象度アップ講座」多くの人が好印象と思われるために」と題して約2時間講演した。

次いで、2グル

ープが企画のプレゼンテーションを行った。社員を派遣した企業の人事、総務などの担当者も招かれて、企画の成果を確認した。

Aグループ メンタルヘルスケアの導入

目的…従業員の心身の健康を維持すること、モチベーションと定着率の向上。

背景…男性社員が多いため、女性特有の病気を理解してもらえない。部下のメンタルを把握できない上司が増え、下からの声が拾われにくい。カウンセリング制度が浸透していない。

企画内容…メンタルヘルスケアの専門部署を置く。部署は親しみやすいように「ほいすこねくと」と命名し、産業医と提携する。個人との連絡ツール（電話、メール）をつくり、気軽に相談できるようにし、定期的な交信も行う。効果…働きやすい環境になることで離職率低下が期待できる。希望



参加の女性社員、派遣した企業の担当者、人材育成委員会メンバー。前列左から3人目、谷口久徳副会長（人材育成委員会担当）、その右、福山裕治九州支部長

業界と比べて休日が少なく、学生の就職選択肢に入りにくくなっている。休暇の少なさは早期離職の理由にもなっている。

企画内容…社員は希望する記念日（本人や家族の誕生日、結婚記念日、ペットの誕生日等、何でもOK）を年間1日、アニバーサリー休暇（有給）として取得する。

効果…業界のイメージが良くなり、採用数の増加につながる。早期離職を防げる。

福山裕治九州支部長は「早期離職の問題は、経営者だけでなく皆さんも気にかけているところだと思ふ。ぜひこういう提案を社内でも組み立てていただき、成果が出ればどんどん報告してほしい」と述べた。最後に場所を変えて交流会が開かれ、食事と会話を楽しみながら人脈のネットワークづくりが励んだ。

□「in九州」の参加者と企業

（順不同、敬称略、(株)略）

Aグループ…黒木奈美（九州エース電研）、赤瀬真由美（テンガイ）、田中和美（西の丸）、渡邊沙貴（ユーコー）

Bグループ…政岡里佳（アサヒデイド）、宮原渚（新富商事）、田中優子（玉屋）、有津里美（フェイスグループ）